

# 特集

## 猫にも人にも 幸せを

新たな1年が始まりました。冬といえばこたつで丸くなる猫、正月飾りには招き猫を思い浮かべる人もいるかもしれません。2024年最初の広報うわじまは第222（にゃんにゃんにゃん）号ということで、猫と人、両方の暮らしに幸せを招くことができるように正しい猫との付き合い方について特集します。

（一社）日本ペットフード協会の調査によると、コロナ禍前の2019年に比べ、2020年以降に犬猫を新たに飼育し始めた数（推計）は増加しています。テレワークやステイホームの影響で、家でペットを飼いたいと思う人が増えたからではないかと考えられています。しかし、コロナウイルス感染症拡大が収まってくるにつれ、飼育放棄やペットの保護数が増加したという声もあるそうです。特に猫は、犬に比べて繁殖力が強いいため、野良猫として増えやすいとされます。

地域で飼い主のいない猫が増えることは、ふん尿による悪臭、庭や畑が荒らされる被害など人の生活環境へ深刻な影響があります。また猫自身も、飼い主がいないことで病気にかかったり、交通事故や虐待、殺処分など不幸な目に遭うことが考えられます。

また、野良猫への餌やりのマナーも求められます。野良猫に餌をやることは法律で禁止されていますが、適切な管理のもとでないと野良猫を増やすことになり、餌を片付けないことで悪臭や虫が発生し不衛生な状態になり、人に迷惑をかけることとなります。

# 不幸な猫を増やさないように

野良猫の不妊去勢手術が  
番城福祉会館で行われました。



猫は、年に2〜3回出産可能で、1回の出産で平均5匹の子猫を産みます。また、生後約半年で子どもを生むことができるようになるので、1頭の雌猫から、1年後には20匹以上に増えている可能性があります。

そこで、野良猫に不妊去勢手術を行い繁殖を抑制する「TNR活動」が行われています。TNRとは、Trap・Neuter・Return（トラップ・ニューター・リターン）を略した言葉で、捕獲器などで野良猫を捕獲（Trap）し、不妊去勢手術（Neuter）を行い、元の場所に戻す（Return）ことです。

TNR活動は、野良猫の過剰な繁殖を制限することで、猫同士の感染症のまん延やふん尿・騒音被害などの人間とのトラブルを減らすことを目的としています。当日はNPO団体「チームにゃんちゃんず」とボランティアにより捕獲された野良猫たちが会場に集められ、同活動に取り組む専門病院「にじのはしスペイクリニック高知分院」の協力で、獣医師が専用車の中で手術をしました。手術をした猫は、その証に片耳の先端をV字にカットします。カットされた形がサクラの花びらに似ているので「さくら耳」の猫とも呼ばれています。せっかく捕獲したのなら

元の場所に戻さず保護すればよいという考えもありますが、捕獲される猫は相当な数で、その全てを収容できる施設と世話をする人の確保は困難です。また、捕獲された猫の中に飼い猫が混ざっていることもあり、野良猫と間違えられないためにも室内飼いの徹底が必要です。

猫を捕まえて手術を受けさせるのはかわいそうだと思う人もいるかもしれませんが、しかし、野良猫の繁殖を制限することは、病気や交通事故、虐待、殺処分などに遭う不幸な命を少しでも減らし、人間と猫が共存できる地域環境を保護するために必要な活動です。





# 地域猫って知ってる？

「地域猫」とは、地域住民の協力のもとで管理されている、特定の飼い主がない猫のことです。不妊去勢手術を施し、餌やりやトイレなどのルールを決めて地域で適切に面倒を見ていくという点で野良猫とは大きく異なります。このことを周知するために、保護猫・TNR活動に取り組んでいる団体の代表である佐々木一恵さんに話を聞きました。



保護猫シェルター「NEKOSUKI」  
NPO団体「チームにゃんちゃんず」  
代表 佐々木一恵さん

弱ってさまよっている猫、親のいない子猫などを保護する施設「NEKOSUKI」を運営しています。施設は70〜80匹の保護猫でいつもいっぱい状態です。月に1度保護した猫の里親を探すための譲渡会を開き、昨年だけで50匹の猫がもらわれていきました。譲渡するときには最後まで飼う意思や環境が整っているかの確認をします。保護猫シェルターは、雨風をしのいで餌をあたえ、病気になれば通院させるといふ最低限のことだけをやる一時的な保護先です。ここが命の終着点とならないように、保護した猫たちみんなが最後まで家族として愛情を注いでくれる里親に出会えることをいつも祈っています。

NPO団体「チームにゃんちゃんず」としては、TNR活動を中心に活動しています。野良猫問題は猫の数をどう抑えるかが重要ですが、施設での保護や家庭への譲渡には限界があり、対応が追いつかないのが現状です。室内飼いと不妊去勢手術の徹底により、野良猫が増えるのを未然に防ぐことが求められています。

また、飼い主のいない猫を地域で管理し、将来的にその数を減らしていく「地域猫活動」も勧められています。地域猫活動は地域の理解や協力を得て、適切なルールの中で猫を管理し、地域みんなで守っていくのが前提です。しかし、宇和島で地域猫活動を行っているのは一定の場所と個人までで、不妊去勢手術についてもまだまだ周知が必要です。

野良猫による被害に困っている人、猫が嫌いな人、興味がない人もいます。現状やTNR活動について知ってもらい、「さくら耳」の猫を外で見たときに「増えないように人の手と優しさが入った猫なんだな」と少しでも関心を持つてもらいたいです。もともとは猫を遺棄したり、管理できなくなった飼い主の責任ではありますが、地域が抱える問題の一つとしてみんなで考えていくことができたらしめます。



保護猫シェルター  
NEKOSUKI  
Instagram



# 猫を飼う上で大切なこと

## 室内飼いの徹底

屋外は交通事故、けが、感染症やふん尿による近隣トラブルなど、さまざまな危険があります。また飼い猫を外に出すと、繁殖活動をして野良猫を増やすことにつながります。

## 迷子の防止

意図せぬ脱走や災害時などに、飼い主の元にすぐに戻れるように迷子札やマイクロチップなどで所有者が分かるようにしましょう。また首輪をすることで野良猫と間違われることを防ぐことができます。

## 不妊去勢手術

猫は非常に繁殖能力が高いため、意図せぬ妊娠や発情期の問題行動、病気を未然に防ぐためにも、不妊去勢手術を行いましょう。

## 飼うなら最期まで

家族の一員として愛情を持って迎え入れ、命を終えるその日まで責任を持って適正な飼育をしましょう。

飼えなくなったからと動物を遺棄することは犯罪です。

## 犬・猫不妊去勢手術費補助金について

市では、犬・猫の不妊または去勢手術費用の一部を補助しています。

### ■対象および補助金額

- ▷飼い犬および猫 2,000円
- ▷飼い主のいない猫（メス）8,000円
- ▷飼い主のいない猫（オス）4,000円

※詳しくは、市ホームページをご覧ください。

問 生活環境課環境衛生係 ☎49-7013



## 猫の命と人の生活環境を守るために

野良猫が増えて困っているという問い合わせは多く、特に猫が繁殖しやすい春先などは毎日相談があります。最近は迷い猫の問い合わせも増えていますが、いなくなった飼い猫が見つかることはほとんどありません。見つかった場合も、交通事故で死んでしまっていたなど悲しい目に遭っているケースばかりです。猫の命を守り、人の生活環境とのトラブルを引き起こさないように、飼育ルールをきちんと守ってください。

また、愛媛県では猫を適正に飼うためのガイドラインが作られていますので、既に猫を飼っている人もこれから飼う人もぜひご覧ください。

愛媛県猫の適正飼養ガイドラインについて



## 1月の市政広報番組

「愛護動物と人との共生について」

木曜日 午後6時～午前0時

金曜日 午前6時～午後5時

※UCATニュース終了後放送





# 大切な家族として招く

三島神社の越智 基安 さんは、鳥居のそばで弱っていた黒猫を保護し大切に飼っています。猫との付き合い方について基安さんと妻の晴香さんに話を聞きました。

7年ほど前、鳥居の前にいたヤミちゃんを見つけました。よたよたと弱った様子でこちらに寄ってきて、毛もぼろぼろに抜け、あごの下の湿疹もひどかったのを覚えています。衰弱してどうしても放っておけなかったので、動物病院にすぐ連れて行きました。このままだと死んでしまってもおかしくないという状態で、直ちに適切な処置をしてもらい、家で保護することになりました。保護した時は、毛が傷み、ぼさぼさで短かったのですが、体調が回復してくると毛も整い、ふさふさした長い毛の今の姿になりました。

現在、ヤミちゃんを含め5匹の猫を飼っていて、そのうち4匹は保護した猫たちです。

## 黒猫ヤミちゃんを家族に招く



三島神社 宮司 越智 基安 さん

晴香 さん 黒猫 ヤミちゃん

## 猫を飼うために大切なこと

ヤミちゃんがうちに来る前に保護した猫が子どもによく懐いてくれたことも猫を保護するようになったきっかけのひとつでした。

猫の体調や性別で部屋を分けて飼育し健康状態を見て避妊手術するなど、責任をもって最後まで飼えるように工夫してきました。また家族の体調も考慮し人と猫の居住空間を分けています。

猫が好きなので、おなかを空かせた野良猫に餌を与えたい気持ちはよく分かります。ただ、安易に餌付けすると飼い主のいない猫を増やすことを助長してしまい、結果として病気になるたり殺処分されるなど悲しい思いをする猫が出てきます。

また、外で飼うと猫が人の畑や庭を荒らしたり、事故に遭う可能性もあるので、極力室内飼いをしてほしいと思



います。どうしても外に出たがる場合は、ハーネスを装着して散歩をするなど事故に遭わないような工夫が必要です。室内に閉じ込めてしまつてかわいそうに思う人もいるかもしれませんが、猫と人の暮らしを守るために大切なことです。外に出られない分、窓から外を見られるようにしたりおもちゃを使つてたくさん遊んであげるように心がけています。





猫が好きなら人もいれば  
嫌いな人もいる

私たちのように猫が好きなら人もいれば、野良猫による被害で困り、猫が嫌いな人もいます。例えば猫が好きなら猫だけの居住地域ができれば理想的だなどと思うこともありますが、現実には難しいです。猫の被害に困っている人たちがいることをきちんと理解し、ルールを守った飼育を徹底して、飼い主のいない猫の数を少しずつでも減らしていくことが大切だと思います。



これから猫を飼う人へ

室内飼いの徹底や状況に応じて避妊手術を行うなど、大切に最後まで責任を持って飼ってほしいと思います。ただかわいいからという理由だけで安易に飼うと後悔することもあると思います。部屋を汚されたり、猫によっては嘔み癖などが出ることもあります。また、爪切りなどのケアも大変で、餌代以外にも通院やトイレにお金がかかります。そういったことも理解した上で、最後まで付き合う覚悟を持ち、愛情を持って大切な家族として招いてくれることを願います。



黒猫の魔除けのお守り

「招き猫」のように、もともと猫は縁起物とされてきました。黒猫というと不吉に思われがちですが、黒い招き猫は厄除けになると言われています。

猫のイメージアップにもつながればという思いも込めて、黒猫ヤミちゃんをモチーフにしたお守りを作りました。





# 地域で一緒に 生きていく 猫も人も幸せに

猫を遺棄することは犯罪です。また、病気や交通事故など危険の多い野外で猫が生きていくことはとても厳しく、命を奪うことにもつながります。

一方で過酷な環境を生き抜いて増えた野良猫が人の生活環境にもたらす問題は深刻です。

しかし、猫は「動物の愛護及び管理に関する法律」で愛護動物に規定されており、個人でも行政でも「駆除」することはできません。

野良猫の問題は、個人だけでは解決できません。猫の問題に取り組む団体や協力するボランティアだけでもできることに限界があります。もともとは猫を遺棄したり、管理ができなくなった飼い主に責任があります。地域で抱える問題の一つとして他人事ではなく自分事として考え、みんなが暮らしやすい地域を作っていくことが大切です。

地域で一緒に生きていく、猫にも人にも幸せを招けるように。